

2021年度 事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

法人の名称 NPO法人ここだね

1. 事業総括

今年度も、NPO法人ここだねの理念の実現のため、フリースクールの運営事業を中心に置いて、下記のとおり、各事業を実施してきました。

ここだねを応援してくださる賛助会員も少しずつ増え、事業を着実に進めていることに対する社会的な理解が深まっていると感じた一年でした。

不登校児童生徒数は年々増加しているため、フリースクールという多様な学びの場を必要としている子どもや保護者のニーズに応えられるように、事業を継続し続ける意義を強く感じながら、事業運営を行なってきました。

2. 事業実施内容と成果

(1) 特定非営利活動に係る事業

① フリースクール運営事業（「フリースクールここだね」事業）

◇フリースクール運営事業

- ・内 容 学校以外の多様な学びの場での教育を希望する小中学生を対象として「フリースクールここだね」の運営を行なった。
- ・日 時 通年 月 12～16日 9:30～14:30
- ・場 所 逗子市の拠点および連携団体の活動場所
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 フリースクールを必要としている児童生徒
- ・活動実績 通算 年 166日開校
登録児童 22人、年間利用のべ 1,032人
- ・事業の成果

コロナの影響により数日間の臨時休校はありましたが、年間を通じて安定的にフリースクールを開校することができました。

中学生の学習ニーズの高まりを受けて、週1回開催した「中学部」も、安定的に継続でき、卒業後の進路に向けての学習等のサポートを行ない、2名の卒業生を送り出しました。中学生の子どもたちの進路選択のサポートをしながら、新しい学びの枠を展開することができました。

アートセラピーの実習生を受け入れて、月に2回のアートの時間を実施しました。こころのケアが必要な子どもも多く、アートセラピーを通してケアが為され、個々についても、集団についても成長を促す効果を実感する実践となりました。

② 学校以外の多様な学びの場を求める子どもとその家族のための相談支援事業

◇相談支援事業（「想暖室」事業、「みみじゅく」事業）

- ・内 容 学校以外の多様な学びについて、子どもの生活や進路、ご家族の悩み等について相談を受けたり、サポートを希望する子どもの学習支援や、

フリースクールの見学や体験等の支援を行なった。

- ・日 時 随時（予約制）月・水・金の 14:40～17:30
- ・場 所 逗子市の拠点
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 学校以外の多様な学びを求める子どもとその家族
- ・活動実績 利用のべ350人
(相談68人、見学34人、体験15人、学習支援233人)

・事業の成果

フリースクールへの入会を希望する親子の見学が多い一年でした。特に、助成金を活用した無料相談、無料学習支援を実施した時期は、多数の相談対応がありました。

相談支援事業においては、多くの相談者の話を聴き、その家庭ごとの課題に向き合い、子どもも家族も安心して過ごせるように適切なケアとサポートを行なってきました。ここだねの相談支援事業を活用することで、親が不安から安心へと変化していくに伴い、子どもも安定して過ごせるようになり、家庭の安定につながるが多く見受けられ、支援を必要としている人につながる機会がより広がることが重要であると感じました。

③ 学校以外の多様な学びの場を求める子どもとその家族と市民の交流と社会教育の推進を図るための事業

◇社会教育推進事業（「心と身体の勉強会」事業）

- ・内 容 子どもも大人も自由に健康で幸福でいられる社会を願い、心と身体の健康についての学習会、体験会の開催をした。
- ・日 時 随時
- ・場 所 逗子市の拠点
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 学校以外の多様な学びを求める子ども・家族・一般市民
- ・活動実績 ①セルフケア体験会（2回開催、参加のべ7人）
②大人のアートセラピー体験（1回開催、参加のべ4人）

・事業の成果

コロナの影響を受け、人が集まることに関して、主催者側も参加者側も慎重になっていることがあり、事業を展開していく難しさを感じました。セルフケア体験では親自身の整え方やケアを知ることによって毎日の子どもとの関係でストレスが減ったという感想が多く届きました。

今年度は、スクール子どもたちと行っているアートセラピーを、大人も体験する場を開きました。親という役割から離れて、ひとりの個人として感じたり、表現したり、分かち合ったりする時間に癒しとこれからの活力を得たという感想が異口同音にありました。

④ 人権擁護と平和の推進と福祉の増進の普及啓発事業

◇地域サポート事業（「ここCafé」事業、「よかったね」事業）

- ・内 容 地域の福祉増進のための生活支援や憩いの場の提供を行なった。
- ・日 時 随時（フリースクール活動時間外で、予約制）
- ・場 所 逗子市の拠点の周辺地域（新宿、小坪、久木等）、拠点の庭
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 一般市民

- ・活動実績 年間利用のべ 32 人（カフェ 2 回のべ 13 人、生活支援 18 回のべ 19 人）
- ・事業の成果

Café 事業はコロナの影響から開催を見送ることが多くありましたが、開催時には遠方からも参加者が多くありました。

今年度の「よかったね」事業については、ひきこもりの若者の自立支援を行ないました。親子関係の課題解決のためのサポートを行ない、改善の方向に向かい支援終了となりました。

3. 補助・助成等の状況

①補助金等

- ・なし

②助成金等

- ・新型コロナウイルス対応緊急支援助成～社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業～（資金分配団体セーブ・ザ・チルドレン、フリースクール全国ネットワーク主催。
コロナの影響や経済的支援が必要な世帯の相談費用、通学費用の助成。375,000 円）
- ・神奈川子ども未来ファンド 2021 年度助成（無料学習支援・無料相談事業「フリーピース」実施。支援スタッフ人件費。20 万円）

③後援、協力、共催等

- ・子ども居場所づくり事業（逗子市協力。「体験学習施設スマイル」の公的利用）
今年度はスマイルが予防接種会場となったため、4～7 月と 10～11 月のみの利用。
- ・ふれあい活動拠点整備事業（逗子市支援。活動拠点の整備、税の減免等）

4. 関係機関との連携

①神奈川県学校・フリースクール等連携協議会（加盟）

公的機関との連携として、神奈川県学校・フリースクール等連携協議会による不登校相談会の個別相談会（今年度は、9/25 の湘南三浦：藤沢会場、2/5 のオンライン相談会に出席）で相談の場を開き、より多くの方々にフリースクールとつながる機会を提供することができました。県教育委員会や他のフリースクールと連携できたことで、地域連携と官民協働によって課題解決に取り組むことができました。

②フリースクール全国ネットワーク（会員）

フリースクール全国ネットワークでは、フリースクールにおいて子どもが安心安全な環境の中で学び育つことができ、子どもも大人も安心して関係を築くことができるように「フリースクールガイドライン」を策定し、フリースクールに関わる全ての人の権利擁護の実現を目指すこととなりました。当法人から深沢武が、ガイドライン作成チームのメンバーになりました。